



沿革

2024年10月東京工業大学と東京医科歯科大学の統合により、あらたに東京科学大学が誕生しました。それに伴い東京工業大学博物館は「東京科学大学博物館」へと改組され、新たに二つの大学の歴史と貴重な文化遺産を守り、伝える役割を担うことになりました。

・博物館本館（百年記念館）の沿革

1）百年記念館の設立

百年記念館は、東工大が創立100周年を迎えた1981（昭和56）年、「東京工業大学創立百年記念事業」の一環として計画されました。同事業にあたっては、本学の同窓会である社団法人蔵前工業会を母体とする募金会（土光敏夫会長）が結成され、卒業生や関係諸会社から寄せられた基金によってその計画が進められました。当時の募金趣意書には、設立の目的が以下のように書かれています。

「東京工業大学百年の歴史は、正にわが国工業の発展を支えた科学・技術の教育・研究の歴史そのものであり、（中略）その教育・研究に用いられた貴重な器材や文書・記録が数多く集積されています。これを体系的に整理し展示することは、たんに東京工業大学にとってだけでなく我が国全体の科学・技術の教育・研究の発展のため先人の果たした業績を明確にする意義をもつものであり、更にこれを踏まえて今後の一層の発展を図るための貴重な礎石となると考えます。そこでこの記念すべき創立百年の時期に当たり、正に『科学・技術の教育・研究百年』の業績の展示・保存を中心とする『百年記念館』を建設し、そこに現在における科学・技術の最先端の所産をも併せて展示して、東京工業大学の遠き将来に向けての一層の発展のための一大モニュメントとする計画であります。」（東京工業大学創立百年記念事業資金募金趣意書より）

このように百年記念館は、先端の科学技術に取り組む姿勢を実社会で活躍されている先輩方との直接対話から学ぶ<人からの伝承>と、創出された技術や研究成果にある背景を具体的資料から学ぶ<物からの伝承>の2つをコンセプトの核と位置づけ、「科学・技術に関わる業績の保存と展示」を中心とした博物館を目指して計画されました。建物の意匠設計には篠原一男教授（現名誉教授）があたり、1986年10月に着工、1年後の1987年9月に竣工し、募金会からの東京工業大学への寄附を経て同年11月に開館しました。

2）東京工業大学博物館の開館

2011（平成23）年4月1日、「東工大らしさ」を集約し、学内外へ発信する拠点として「東京工業大学博物館」（博物館相当施設）が誕生しました。博物館では、東京工業大学で生み出された教育と研究の歴史的成果を収集・保存するとともに、さまざまな最先端の研究や社会への応用実績、本学卒業生の社会貢献についても調査・研究を行い、その価値を伝承しつつ社会に向けて広く発信することを目的に活動してきました。

東京科学大学博物館として

今後は東京科学大学博物館として、両大学の歴史に関わる資料の蒐集・調査研究に取り組み、展示などを通じて本学の誕生に至る歩みとその歴史的な意義を伝える活動をして参ります。



館内ガイド

博物館の常設展示室は地階と2階にあり、自由にご見学いただけます。博物館の収蔵品には、本学の教育や研究に活用されてきた貴重な機器・物品等をはじめ、卒業生や学外の研究者から寄贈された資料・作品等が多数あり、その種類は多岐多様にわたります（下リスト参照）。常設展示室ではそれらの所蔵資料の一部を展示公開しています。

展示室の他に、1階の天井の高いガラス張りの大空間は、企画展示やシンポジウムの会場として使われます。日常的には学生の自習や話し合いに最適なラーニングスペースとして利用されています。

3階はフェライト記念会議室と談話室があり、中規模の会議や講演会、レセプション等の催しが行われます。天井の高い内部空間をハーフシリンドーが貫通する、前衛的でダイナミックな空間となっています。

4階のスペースはかつてレストラン・ラウンジが営業していました。内部空間には、大岡山駅から本館へと伸びる屈曲したハーフシリンドーの形がそのまま現れています。

- 平野耕輔陶磁器コレクション
- 卒業生の工芸家の作品コレクション
- ホログラフィー研究および作品コレクション
- 卒業生近藤茂制作絵画コレクション
- 正木退蔵資料
- 手島精一資料
- 森田清・西巻正郎研究室製作等真空管コレクション
- 平林金吾資料
- 谷口吉郎建築資料
- 清家清建築資料
- 篠原一男建築資料
- 計測器・計算機コレクション
- パーソンズタービン
- 可動する最古のスターリングエンジン
- 紡織機コレクション



東工大略年表、手島精一、正木退蔵、和田小六資料等の展示



森田清・西巻正郎研究室製作等真空管コレクション

- 大型機械コレクション
- 古賀逸策水晶振動子研究資料
- フェライト研究資料
- 和田小六を中心とする第二次世界大戦直後の東工大改革資料
- ロボット研究コレクション
- 東工大設立時の建築物建設写真コレクション
- 古橋家文書資料
- 東京高等工業学校学生ノート（仁木源吉氏他）コレクション
- 神原周関連コレクション
- 中田孝歯車研究資料
- 末松安晴・伊賀健一光通信研究資料
- 田中郁三光化学研究資料
- ノーベル賞受賞資料
- 奥野健男資料

B1

特別展示室

Mon-Fri / 10:30-16:30 [入場無料]

【展示】

特別展示室 A

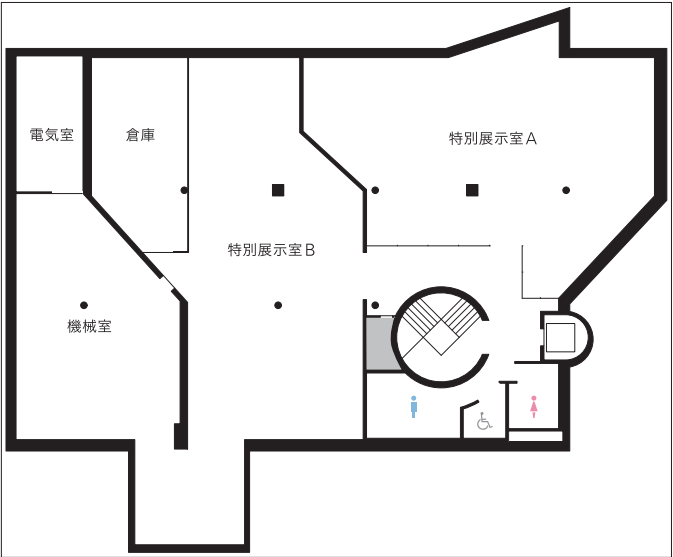
- 蔵前キャンパス時代の資料
- 窯業研究の資料
- 建築模型と建築研究に関する資料
- 東工大の三大発明 ※水晶振動子は2階展示室にて展示（フェライト研究、ビタミンB2の工業的製造に関する資料）
- 化学工学科創設に関する資料
- 合成ゴム・合成繊維の研究に関する資料
- 光イオン化、レーザー光化学の研究に関する資料
- 絶対零度研究の資料
- 歯車研究、ロボット研究の資料
- ノーベル賞受賞研究に関する資料



特別展示室 B

- 紡織（学科実験）工場で使用された繊維機械
- 本多式熱天秤など歴史的に価値のある科学機器類
- 東工大で開発された通信機器、東工大で利用された機器
- ホログラフィー研究資料、作品
- スターリング・エンジンなど歴史的に価値のある大型機械類

※一部展示替えをする場合があります。



1F ラーニング&インフォメーション・コモンズ (T-POT)

Mon-Fri / 10:00-17:00 [入場無料/ 飲食不可]

利用設備・備品については、最終ページ「おすすめツール紹介」をご覧ください。

大学のインフォメーション機能を併せもつ活動的な学習スペースです。談話や授業外のグループワークの場としてご利用いただけます。

また学内情報を中心とした広報棚も設置されていますのでお気軽にご覧ください。

「T-POT」とは？

百年記念館1階がラーニングスペースとして生まれ変わる際の公募で、多数の応募の中から決定したネーミングです。

Tokyotech

People, Performance

Opportunity

Technology

それぞれの頭文字からとり、「人々がパフォーマンスを楽しみ、情報交換をしながら好機を得て、新技術をつくりだす場所」という意味が込められています。

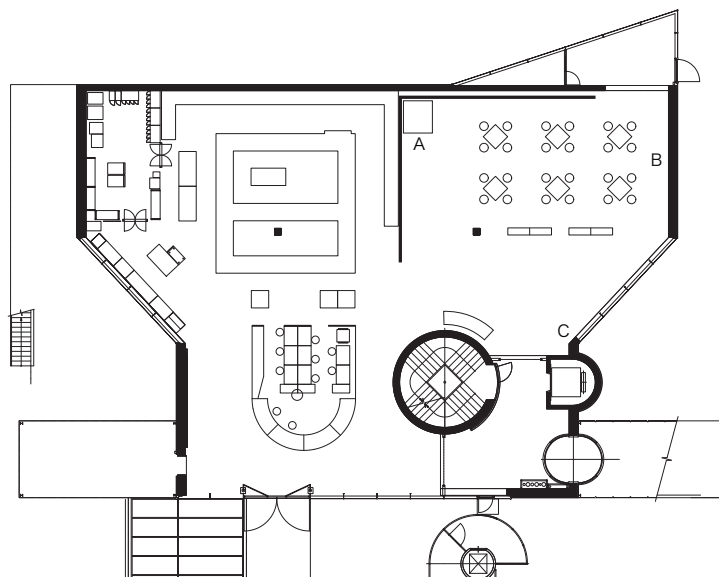


【展示】

A) 「本館模型」

B) 「風景」(岡本陸郎 1992-1993)

C) ワグネル記念碑のワグネル陶像 (1937年制作オリジナル)



2F 展示室

Mon-Fri / 10:30-16:30 [入場無料]

【展示】

1) 東京科学大学の設立～東京工業大学沿革略史: 1881年(明治14年)に東京職工学校として設立され、1890年(明治23年)に東京工業学校、1901年(明治23年)に東京高等工業学校と変遷し、さらに1929年(昭和4年)大学昇格後、科学大への統合に至るまでの東工大の沿革をまとめた年表と、創設期・変革期に活躍した3名の学長に関する資料を紹介しています。

・東工大略年表

・手島精一: 工業教育の基礎を築く

・正木退蔵: 東京職工学校初代校長

・和田小六: 終戦直後の日本の全大学の改革の先頭に立つ

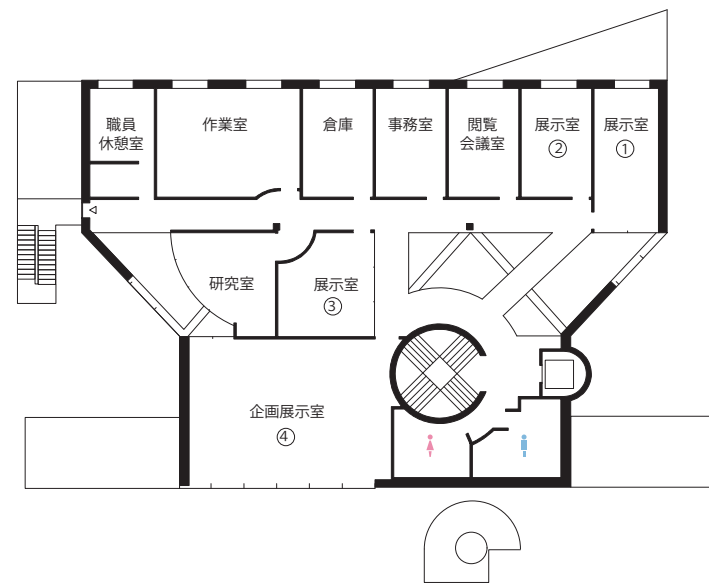
2) 電気～光/通信の先端研究史: 東工大では1920年代末頃より、電波通信から光通信へと繋がる通信の先端技術に関する研究が続けられてきました。古賀逸策による高安定水晶振動子の発明など、東工大で生まれた多くの歴史的成果を紹介しています。

3) 百年記念館/篠原一男: 東工大の創立100年を記念して設立された百年記念館の紹介と、その設計者である篠原一男の建築作品の模型を中心に展示しています。

4) 企画展示室: ミニ企画展示やワークショップなどのイベント会場として使われる多目的スペースです。



上/①
中左/②
中右/③
下/④



3F フェライト記念会議室

(要予約・有料) 2023年7月1日より当面の間貸出休止
談話室は、ご予約の方であれば自由にご利用いただけます。
施設利用については「利用案内」ページをご覧ください。

中規模会議、講演会などに利用できます。

(収容人数：76人、最大100人 飲食不可)

駅から徒歩1分という好立地で中規模会議、講演会などにご利用いただける会議室です。手前にある談話室は受付や待合としても利用できます。風景を一望できるガラス張り、湾曲したハーフシリンドラーが突き抜ける天井が印象的な空間です。

「フェライト」とは

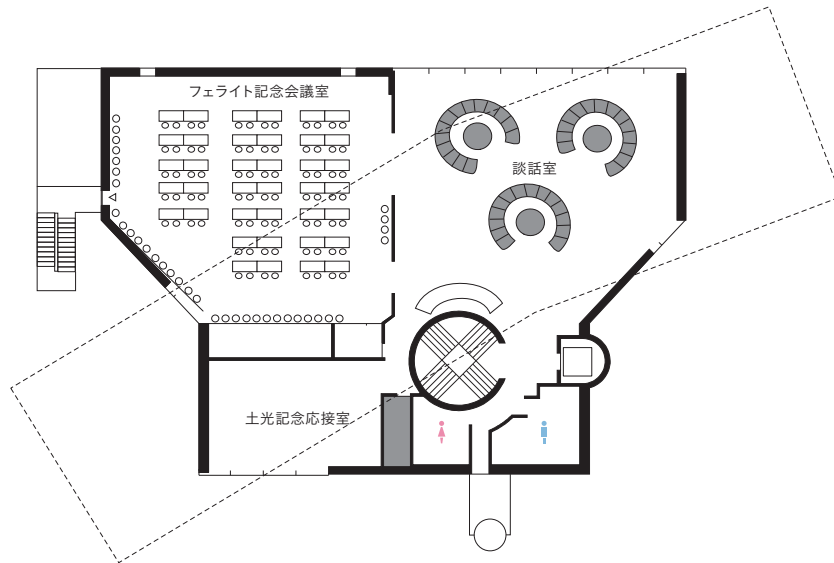
酸化鉄を主成分とする酸化物磁性材料であり、1930（昭和5）年に東工大で、加藤與五郎教授と武井武助教授が発明し特許を取得しました。最初に強力な永久磁石となるコバルトフェライトが合成され、次いで、優れた高周波磁性材料特性を有する「銅-亜鉛フェライト」が合成されました。東工大で生まれたフェライトはその工業化が卒業生らの手で行われ、社会に大きく貢献しました。このことを記念して、この会議室は「フェライト記念会議室」と命名されました。



フェライト記念会議室



談話室



4F 旧レストラン・ラウンジ「角笛」

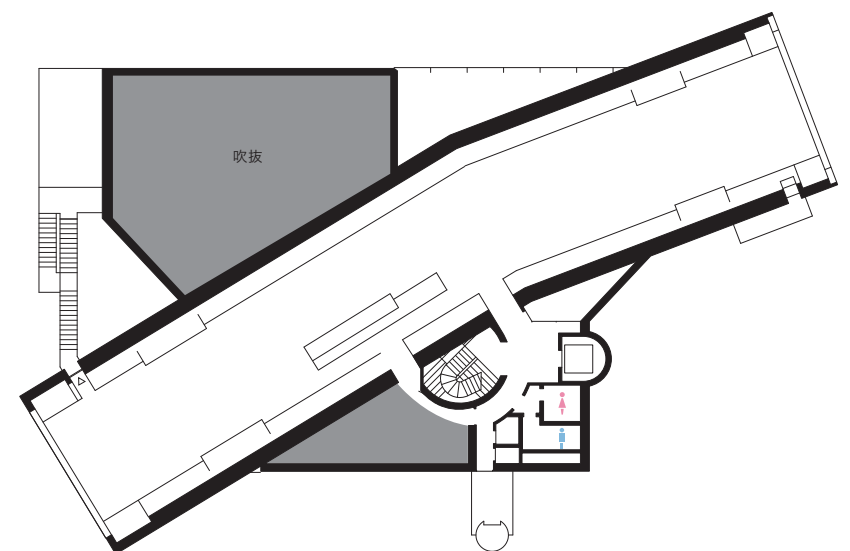
現在、内部は見学できません。

かつて百年記念館の外観を特徴付ける屈曲したハーフシリンドラー内で、レストラン・ラウンジが営業していました。



東京工業大学職員集会所（「耐火建築」田辺平學，1949より）

田辺平學・後藤一雄が考案したプレコンを用い、1949（昭和24）年に竣工した「職員集会所（蔵前記念館）」に喫茶室「角笛」がありました。
この喫茶室は、当時の教職員や学生達から憩いの場として愛されていたとのことです。
その後百年記念館の建設にあたり、「角笛」は4階レストラン・ラウンジとして引き継がれましたが、2013年に惜しまれつつ閉店しました。



利用案内

○東京科学大学博物館本館	月～金曜日 8:30～17:00（祝日、年末年始等の休館日を除く）			
常設展示室	地下1階・2階	10:30～16:30	[入場無料]	
ラーニング&インフォメーション・コモンズ「T-POT」	1階	10:00～17:00	[入場無料]	
フェライト記念会議室	3階		[当面の間貸出休止]	
旧レストラン・ラウンジ	4階		[閉鎖中]	

○1階 T-POT・3階会議室利用受付

博物館事務室 TEL：03-5734-2098（9:30～17:00）Mail：centjim@jim.titech.ac.jp
※利用の際の「使用責任者」は学内の教職員に限定させていただきます（学生、OBOG不可）

	施設名称	部屋面積	定員数	利用料金（1時間単位）		備考
			（最大席数）	学内	学外	
1階	T-POT Aゾーン	81m ²	24			[当面の間貸出休止]
3階	フェライト記念会議室	364m ²	76（100）	¥11,492	¥22,985	[当面の間貸出休止]
	土光記念応接室 ※下記条件あり	60m ²	10（15）	¥1,894	¥3,829	[当面の間貸出休止]

- 《注意点》
- ・会議室は原則として教育・学術を目的とし、本学教職員、その他の学術団体等が主催する会合にご利用可能です（応相談）。
 - ・3階の土光記念応接室の貸出は、フェライト記念会議室使用の場合のみとします。
 - ・3階の空き状況、詳細につきましては博物館ホームページにてご確認ください。博物館事務室迄お問い合わせ下さい。

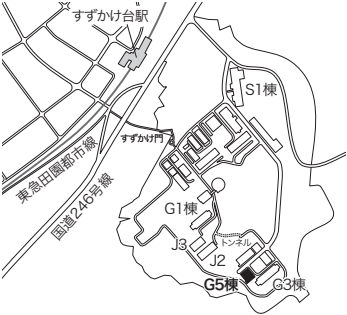
お問合せ・アクセス
○博物館・百年記念館
（大岡山キャンパス）
月～金曜日／9:30～17:00
TEL：03-5734-3340 ／ FAX：03-5734-3348
Mail：centjim@jim.titech.ac.jp
URL：https://www.cent.titech.ac.jp/

〒152-8550
東京都目黒区大岡山2-12-1
東急目黒線・大井町線大岡山駅下車
大岡山キャンパス内
《博物館》百年記念館



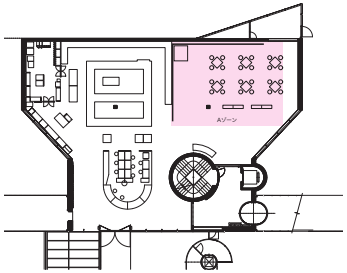
○資料館・公文書室
（すずかけ台キャンパス）
G5棟7階701～711号室（閲覧室・事務室）
月～金曜日／10:00～12:15・13:15～16:00
（入室は15:30まで）
TEL：045-924-5501 ／ FAX：045-924-5536
Mail：centshiryou@jim.titech.ac.jp
URL：https://www.cent.titech.ac.jp/

〒226-8503
神奈川県横浜市緑区長津田町4259
東急田園都市線すずかけ台駅下車
すずかけ台キャンパス内G5棟7階



ラーニング&インフォメーション・コモンズ(1F/T-POT) ツール紹介

Aゾーンは、学生や教職員が学修やミーティングなどにご利用いただくことができます。また博物館・資料館の企画展示やイベントなども開催します。



①ホワイトウォール(幅約9m)

壁に直接文字を書いたり、ふせんなどを貼り付けて使用できる壁です。マグネットも使用でき、ディスカッションやグループ作業に最適です。関連備品：ホワイトボードマーカー(4色)、拭き取り用クロス等



②プロジェクター

（コミュニケーションツール）
ホワイトウォールに投影できる、移動可能なプロジェクターです。ツール内備品：HDMIケーブル、VGAケーブル、Macディスプレイポート→HDMI変換コネクタ、レーザーポインター、延長コード等



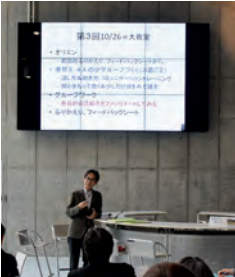
③可動式電子黒板

専用タッチペンで自由に文字や図を描くことができます。またPCに接続するとモニターとしても使用できます。ツール内備品：HDMIケーブル、VGAケーブル、Macディスプレイポート→HDMI変換コネクタ、USBケーブル等



④ウォールビジョン

壁付けされたウォールビジョンは学内情報の放映ができます。



⑤可動棚

荷物置きや、ゾーンを仕切るパーティションとしてもご利用いただけます。



スペース貸出の注意

- ・館内施設の利用は事前の申込が必要です。詳細は「利用案内」ページをご覧ください。
- ・上記の備品は施設内での使用に限定させていただきます。備品の学外貸出は行っておりません。

利用受付・問合せ

博物館ホームページ https://www.cent.titech.ac.jp
百年記念館会議室受付(博物館事務室)
TEL：03-5734-2098 ／ Mail：centjim@jim.titech.ac.jp

